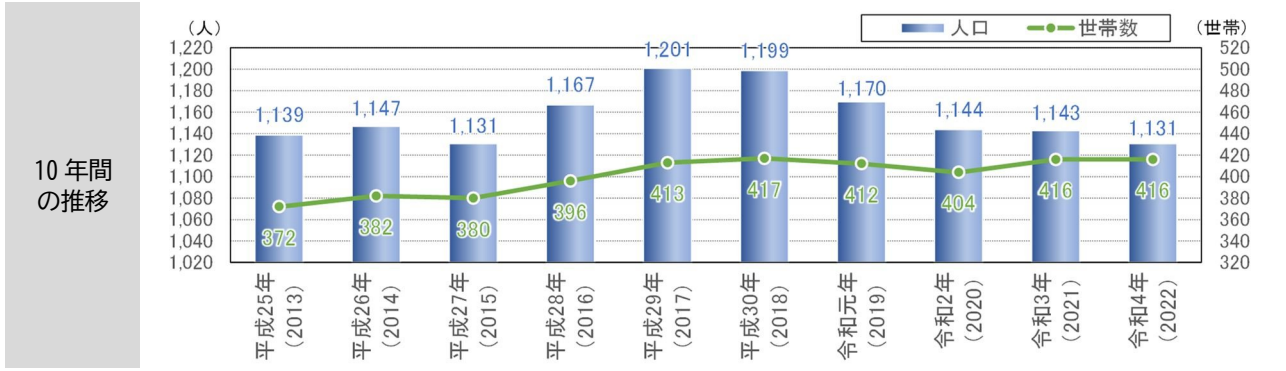
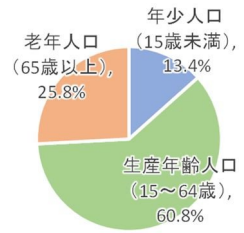


	世帯数	人口	年齢別人口
現在	416 世帯	1,131 人	15歳未満 (年少人口) 152 人
			15～64歳 (生産年齢人口) 689 人
			65歳以上 (老年人口) 293 人
約50年前	141 世帯	657 人	



地名は、江戸時代の地誌『播磨鑑』によると法道仙人開基と伝わる西光寺にちなむとされ、焼堂、仁王下、鐘鑄場などの寺に関連した小字地名も伝わっています。

宝性院近くで小学生が発見した有舌尖頭器などから、縄文・弥生時代からこの地域に人々が暮らしていたことが知られています。古代律令制では播磨国神前郡川辺里、中世は田原荘に含まれたと考えられます。嘉吉の乱以降、村は赤松・山名の合戦や秀吉の播磨攻略などの戦場となり、長い間壊滅状態となっていました。文禄年間 (1592～1596) 頃から居住地に戻っていったと考えられています。

近世は豊臣氏の領地となった後、慶長5年 (1600) からは姫路藩領となり、大庄屋組でははじめは八反田組、寛延2年 (1749) の一揆後の寛延3年 (1750) からは辻川組に属しました。明治9年 (1876) に南田原村の一部となりました。近代には瓦の製造が盛んで、西光寺には5軒の瓦製造所がありましたが、昭和に入ると粘土層の減少・洋瓦の普及などで生産が減って、昭和40年 (1965) には窯の火は消えることとなりました。



※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

歴史文化遺産一覧

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建築物 建造物	1	西光寺仁王門	—	法道仙人の開基と伝わる西光寺は、かつては広大な寺領をもっていたが、山名・赤松の合戦や秀吉の播磨攻略の際に焼かれて一時は廃寺になった。延宝年間(1673~1681)に本堂等を改修し、その後恵淳法印により本堂を大改修、毘沙門堂、仁王門、鐘楼堂、業者堂、地藏堂が建立されている。				●		
	2	釈迦如来坐像(宝性院)	大正2年(1913)	釈迦如来の石仏。正面に由来が記されている。				●		
	3	阿弥陀如来坐像(姫ヶ池三叉路)	不明	阿弥陀如来の石仏。				●		
	4	三十三ヵ所観音(宝性院)	不明	宝性院の境内に西国三十三所札所の本尊を写した石仏が三十三基造立され、それぞれに番数と寺名、それを供養した人物などが記されている。				●		
	5	役行者坐像(宝性院 毘沙門堂横)	不明	役行者の石像。				●		
	6	経典供養塔(宝性院 毘沙門堂横)	宝暦12年(1762)	経典供養の石塔。正面には「奉納大乘妙典六十六部供養」、右に「為両親菩提」、左に「南無十方施主為菩提」、背面に造立年月等が記されている。				●		
	7	石灯籠	文化13年(1816)	石灯籠。正面には「常夜灯」、右に造立年月、左に「與位大明神」、背面に「当村氏子中」と記されている。氏神・與位大明神(中嶋)を遷すためのもの。以前は西方の三叉路付近にあったが、現在は住吉神社境内に移設されている。				●		
	8	石灯籠	大正3年(1914)	左右一対の石灯籠。住吉神社が中島へ移座中に造立。右灯籠の正面に「常夜灯」、右に「天照皇太神宮」、左に「金刀比羅宮」、背面に造立年月、左灯籠の正面に「常夜灯」、右に「一宮与位神社」、左に「熊野神社」、背面に「墨之江神社」と記されている。基礎には周施人や石工、寄付者の名が記されている。以前は宝性院前の広場にあったが、現在は住吉神社境内に移設されている。				●		
	9	石灯籠(宝性院石階上段)	不明	石灯籠。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

西光寺

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	10	石灯笼（宝性院毘沙門堂前）	不明	石灯笼。				●		
	11	誠忠碑（宝性院）	大正 10 年（1921）	正面には「誠忠碑 陸軍中将宇垣一成書」と記されている。						●
	12	石段標（住吉神社）	明治 35 年（1902）	左右一対の石段標。右柱正面に施主、左に造立年月、左柱正面に周施人、右に「現住恵源代造之」と記されている。				●		
	13	石室（姫ヶ池三叉路）	明治 43 年（1910）	石室。正面に「明治四十三年三月」と記されている。				●		
	14	石棺蓋石（宝性院）	不明	家形石棺の蓋石。幅 117 cm、長さ 207 cm、高室石製。長持形と家形の間か、やや家形石棺よりの形状である。該当する古墳や棺身等は不明である。境内の庭園に展示されている。				●	●	
	15	石棺残欠（宝性院毘沙門堂横）	不明	家形石棺の蓋石の残欠。				●	●	
	16	石棺棺身（宝性院墓地）	不明	刳抜石棺の棺身と思われる。				●	●	
	17	道標（西光寺路傍）	不明	生野街道（但馬道）の道標。正面には地蔵の像容とともに「右 飾磨 姫路 左 不つけさん □□□□ 道」と記されている。				●	●	
	18	道標（姫ヶ池三叉路）	不明	正面には地蔵の像容とともに「右 たじま 左 村 道」と記されており、地蔵信仰と道標を兼ねる。石室には明治 43 年（1910）の銘があるため、もとは外にあったものを道路拡幅の時に石室内に入れたと考えられる。				●	●	
	19	堀米令次信発墓碑（西光寺墓地）	天保 8 年（1837）	墓碑。正面には「芳」を丸で囲ったものと「長虞樹昌居士」、右には「堀米令次信發墓」、左には辞世の歌が記されている。				●		
	20	五輪塔墓（宝性院）	不明	40～50 cmほどの小さな五輪塔群。嘉吉の乱の時の戦死者の墓標ともいわれている。この他、明治末期から大正初期に西光寺野開拓の際には多くの五輪塔が埋められたと伝わる。				●		●
21	曾我兄弟仇討図（住吉神社）	昭和 48 年（1973）	奉納者は「中安慎次」とある。46×69 cm。	●			●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称		年代	概要	歴史文化ものがたり					
					①	②	③	④	⑤	⑥
美術工芸品 絵画	22	梵鐘奉納図(踊)(宝性院)	享保7年 (1722)	町内最古の絵馬。奉納者は不明。69.5×161 cm。鐘を奉納して念願叶った信者たちの奉納踊りの様子が描かれている。	●			●		
	23	騎馬武者絵図(宝性院)	文化11年 (1814)	画家は「養命堂信孝」、奉納者は「願主 当村中」とある。84.5×102.5 cm。	●			●		
	24	毘沙門天御開帳図(宝性院)	天保12年 (1841)	画家は「姫府(路) 岡上鶴遊齋」、奉納者は「当村中」とある。123×161.5 cm。住吉神社は嘉吉の乱で焼失する前は、現在の場所より南西に位置する宝性院の門前あたりにあったと伝えられており、この位置については、宝性院毘沙門堂に現在も保存されている毘沙門天御開帳図にも描かれている。	●			●		
	25	浄瑠璃稽古揚額(宝性院)	明治24年 (1891)	奉納月は読み取れないが、奉納日は「1日」とある。奉納者は不明。奥村四座。78.5×145 cm。	●			●		
	26	竹生島巖金山宝巖寺真景図(宝性院)	大正2年 (1913)	奉納者は「中井熊太郎」とある。降雨祈願であり、額左枠に縦書墨書がある。この墨書最後には「竹筒と共に永遠奉納置く」とあるが、この竹筒は現存しない。36.5×57.5 cm。	●			●		
	27	源頼光鬼童丸討取図(宝性院)	大正6年 (1917)	奉納者は「当村青年会連中」とある。105×150 cm。	●			●		
	28	当村本尊開扉ニ付近村ヨリ造込全景之図(宝性院)	大正12年 (1923)	世話人として30名の名がある。画家は「圓頭巖本筆」とある。明治35年4月18日より22日迄執行。123×161.5 cm。	●			●		
	29	中国故事題材図(宝性院)	不明	奉納者は不明。衝立に転用されている。123.5×160 cm。	●			●		
	30	写真額(宝性院)	大正6年 (1917)	奉納者は「卯年男」とある。世話人7名の名がある。歩兵第拾聯隊機関銃隊員。40×46.5 cm。	●			●		
	彫刻	31	阿弥陀如来立像(宝性院)	不明	宝性院の本尊。				●	
32		毘沙門天像(毘沙門堂)	不明	毘沙門堂の本尊阿弥陀如来立像の脇侍として安置。阿弥陀仏の脇侍が毘沙門天であるところも、廃絶した西光寺のかつての盛況をしのぼせる。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

西光寺

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
美術工芸品	工芸品	33	梵鐘	享保3年(1718)				●		
	書跡・典籍・古文書・歴史資料	34	住吉神社古事記録	昭和29年(1954)		●				
		35	西光寺村文書	—		●				
		36	住吉神社上棟棟札	不明				●		
有形の民俗文化財	祭具	37	屋台(西光寺区)	—				●	●	
	その他の有形の民俗文化財	38	力石(西光寺)	不明				●		
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	39	秋祭り(田原)	—			●	●	●	
		40	正月行事	—				●		
		41	斎灯(節分護摩供・豆まき)	—				●		
		42	夏まつり	—				●		
		43	盆祭り(納涼大会)	—				●		
		44	地藏盆	—				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡等	45	西光寺西ノ垣内遺跡	中世	中世の集落跡。					
		46	桜田遺跡	弥生時代	弥生時代の遺物の散布地。弥生時代後期の土器が採集されている。					
		47	南田原中野田遺跡	弥生時代	弥生時代の遺物の散布地。弥生時代後期の土器が採集されている。					
		48	西光寺遺跡	縄文時代	縄文時代の遺物の散布地。					
		49	西光寺中遺跡	中世	溝状遺構が確認されている。宝性院に近接し、字名が西光寺であることから、寺院関係の遺構の可能性もある。					
	古道・街道等	50	生野鉦山寮馬車道	明治9年(1876)	生野鉦山(朝来市)と飾磨津(姫路市)を結ぶ全長49kmの馬車道。鉦山物資等を運ぶための産業道路として、明治6年(1873)に計画し、明治9年(1876)に完成した。当時の道路構造を保つところは少ないが、現在も道路として使用され、当時の道筋を知ることができる。					
		51	生野街道(但馬道)	—	姫路から但馬へと通じる南北道。道標には「但馬道」と記されているものが多く確認されるため、江戸時代には「但馬道」と呼ばれていたことが分かる。					
	戦跡	52	防空壕	昭和初期	民家近くの竹林の法面に位置する。壕の入口は2か所あり、中でつながっている。					
	その他の遺跡	53	生野街道の一里塚(西光寺村付近)	—	「慶長播磨国絵図」で確認できる。西光寺村の南端、姫ヶ池のそばにあったとされるが、現在は見当たらない。					
動物・植物・地質鉱物	植物	54	児童公園のサクラ	—	4月の桜の満開の時期には花見会が開催される。					

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

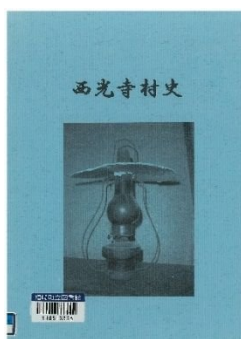
西光寺

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
文化的景観	55	姫ヶ池	—	農業用のため池。池の名の由来についての伝承が伝わる。			●			
	56	西光寺野用水 (岡部川疎水路)	大正3年 (1914)	大正3年(1914)に完成した用水路。西光寺野土地改良区が所有・管理して、現在も農業用水路として利用されている。全長540mの煉瓦トンネルも残る(内部底面及び一部側面をコンクリートで補修)。			●			
その他	信仰の場	57	宝性院	—	天平(729~749)頃に行基が開基した伝わる天台宗の寺院で、西光寺の一院であったとされる。本尊は阿弥陀如来。境内には約百種類の椿が植栽されている。				●	
		58	住吉神社	—	明治44年(1911)神社合祀の布令で中島村與位神社に移坐。昭和25年(1950)に西光寺に帰坐し、昭和29年(1954)に現在の社殿を建立した。				●	
		59	愛宕神社	—	竜神で防火の守護神である。もとは東池付近にあり、7月24日の夕暮れには、麦藁の松明を持ち寄り、東池の土手周辺で鎮火祭をして火事のないことを祈る。かつては芝居、浪曲等の余興が行われていた。				●	
		60	毘沙門堂	—	旧西光寺の本堂。秘仏の毘沙門天像が安置されており、60年毎に開帳される。				●	
	寺社の行事	61	涅槃会	—	2月15日に宝性院で行われる。				●	
	62	春季善光寺法要	—	4月30日に宝性院で行われる。				●		
	63	花まつり法要	—	5月8日に宝性院で行われる。				●		
民間説話・地名・伝承地・屋号等	64	キヨ堂	—	字北垣内に「喜代堂」と呼ばれる田があり、「経堂の跡」という説がある。永正9年(1512)10月の「田原庄本所分段銭算用状」に「四十代(8畝)清堂分、1段西光寺分」とある。				●		
	65	姫ヶ池の伝説	—	伝承によると、西光寺の姫様が姫路城からの帰途、男に化けた狐に騙され、池に落ちて亡くなった。それを哀れみ、供養のための灯籠を建てたところ、寺の方向へと傾いた。村人は彼女を偲び、池の名を「姫ヶ池」としたという。				●	●	

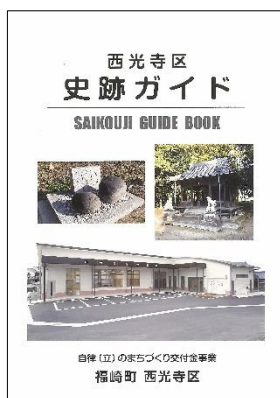
※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

歴史文化遺産の保存・活用の取組等

- ・平成 27 年（2015）に塚本氏により地域史誌『西光寺村史』が編さんされました。
- ・自律（立）のまちづくり交付金事業を活用して、令和 2 年（2020）1 月に『西光寺区史跡ガイド』を作成・発行しました。
- ・地域の交流の輪を広げるため、児童公園で花見会を実施しています。
- ・三世代交流七夕会やクリスマス会を実施し、福崎町の伝統行事 DVD の鑑賞や福崎町にまつわるクイズ大会を行い地域への愛着の醸成を図っています。
- ・公民館南の花壇に置かれていた力石を移設して、基壇・説明板を設けて整備しました。
- ・令和元年（2019）9 月に、西光寺区祭り保存会を設置し、会員相互の親睦や祭り太鼓の保護、継承を図るための取組を実施しています。



『西光寺村史』の編さん



『西光寺区史跡ガイド』の作成



力石の整備